

逆像法4【方程式の実数解のとり得る範囲】 【類題】

θ は $0 \leq \theta \leq \frac{\pi}{2}$ を満たす定数とする。 x の4次方程式

$$x^4 - 2(\sin \theta + \cos \theta)x^2 + (\sin \theta - \cos \theta)^2 = 0$$

の実数解のとり得る値の範囲を求めよ。

< '05 東京大 改 >

【戦略】

$$\begin{aligned} x^2 &= (\sin \theta + \cos \theta)^2 \pm \sqrt{(\sin \theta + \cos \theta)^2 - (\sin \theta - \cos \theta)^2} \\ &= (\sin \theta + \cos \theta)^2 \pm \sqrt{4 \sin \theta \cos \theta} \end{aligned}$$

などとして、 θ を $0 \leq \theta \leq \frac{\pi}{2}$ の範囲で動かす

という方針はできれば回避したいと思うのが普通でしょう。

$x=1$ は解になる? $x=2$ は解になる? ...

$x=k$ は解になる? なれるとしたらどんな k ?

という逆像法で考えていきます。

$x=k$ が解になるとしたら

$$k^4 - 2(\sin \theta + \cos \theta)k^2 + (\sin \theta - \cos \theta)^2 = 0 \dots \textcircled{1}$$

を満たす θ が $0 \leq \theta \leq \frac{\pi}{2}$ に存在することになります。

つまり、これを θ に関する方程式と見ます。

この θ に関する方程式を解こうとすると、 $\sin \theta$ 、 $\cos \theta$ に関する対称式と看破する必要があります。

$\sin \theta$ 、 $\cos \theta$ の対称式については $t = \sin \theta + \cos \theta$ とおくのが定石であり $t^2 = 1 + 2 \sin \theta \cos \theta$ 、すなわち $\sin \theta \cos \theta = \frac{t^2 - 1}{2}$ と積も得られることになります。

これにより、 $\textcircled{1}$ を書き直すと、 $k^4 - 2tk^2 + 2 - t^2 = 0$ 、すなわち

$$t^2 + 2k^2t - k^4 - 2 = 0 \dots \textcircled{2}$$

となります。

$t = \sqrt{2} \sin\left(\theta + \frac{\pi}{4}\right)$ なので $0 \leq \theta \leq \frac{\pi}{2}$ のとき、 t の範囲は $1 \leq t \leq \sqrt{2}$ ということに注意すると

「 $\textcircled{1}$ を満たす θ が $0 \leq \theta \leq \frac{\pi}{2}$ に存在する」

ということは

「 $\textcircled{2}$ を満たす t が $1 \leq t \leq \sqrt{2}$ に存在する」

という条件に言い換えることができます。

【解答】

$x=k$ が解になるとき

$$k^4 - 2(\sin \theta + \cos \theta)k^2 + (\sin \theta - \cos \theta)^2 = 0 \dots \textcircled{1}$$

を満たす θ が $0 \leq \theta \leq \frac{\pi}{2}$ に存在する。

$t = \sin \theta + \cos \theta$ とおくと、 $t^2 = \sin^2 \theta + 2 \sin \theta \cos \theta + \cos^2 \theta$

すなわち、 $t^2 = 1 + 2 \sin \theta \cos \theta$ であり、 $\sin \theta \cos \theta = \frac{t^2 - 1}{2}$

$$\begin{aligned} (\sin \theta - \cos \theta)^2 &= \sin^2 \theta - 2 \sin \theta \cos \theta + \cos^2 \theta \\ &= 1 - 2 \sin \theta \cos \theta \\ &= 1 - 2 \cdot \frac{t^2 - 1}{2} \\ &= 2 - t^2 \end{aligned}$$

ゆえに、 $\textcircled{1}$ は、 $k^4 - 2tk^2 + 2 - t^2 = 0$ となる。

ここで、 $t = \sqrt{2} \sin\left(\theta + \frac{\pi}{4}\right)$ であり、 $0 \leq \theta \leq \frac{\pi}{2}$ であるとき、

$\frac{\pi}{4} \leq \theta + \frac{\pi}{4} \leq \frac{3}{4}\pi$ であることから、 $\frac{1}{\sqrt{2}} \leq \sin\left(\theta + \frac{\pi}{4}\right) \leq 1$

辺々 $\sqrt{2}$ をかければ、 $1 \leq t \leq \sqrt{2}$

以上から、 $x=k$ が $\textcircled{1}$ の解となるときの、 $k^4 - 2tk^2 + 2 - t^2 = 0$ 、すなわち

$$t^2 + 2k^2t - k^4 - 2 = 0 \dots \textcircled{2}$$

を満たす t が $1 \leq t \leq \sqrt{2}$ の範囲に少なくとも1つ存在する。... (*)

$f(t) = t^2 + 2k^2t - k^4 - 2$ とおく。

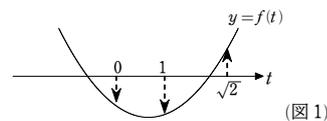
$\textcircled{2}$ の判別式を D とおくと、

$$\begin{aligned} \frac{D}{4} &= k^4 - (-k^4 - 2) \\ &= 2k^4 + 2 \\ &> 0 \end{aligned}$$

であり、 $\textcircled{2}$ は異なる2つの実数解をもつ。

$f(0) = -k^4 - 2 < 0$ であることに注意すると

$$(*) \Leftrightarrow \begin{cases} f(1) \leq 0 \dots (\text{ア}) \\ f(\sqrt{2}) \geq 0 \dots (\text{イ}) \end{cases} \quad ((\text{図1参照}))$$



(ア) について

$$\begin{aligned} f(1) &= 1 + 2k^2 - k^4 - 2 \\ &= -(k^2 - 1)^2 \end{aligned}$$

より、(ア) は常に成り立つ。

(イ)について

$$f(\sqrt{2}) = 2 + 2\sqrt{2}k^2 - k^4 - 2 \\ = -k^2(k^2 - 2\sqrt{2})$$

よって、 $-k^2(k^2 - 2\sqrt{2}) \geq 0$ 、すなわち $k^2(k^2 - 2\sqrt{2}) \leq 0$

これを k^2 についての2次不等式と見なせば、 $0 \leq k^2 \leq 2\sqrt{2}$

これより、 $-\sqrt[4]{8} \leq k \leq \sqrt[4]{8}$ を得る。

以上から、実数解 $x (=k)$ のとり得る値の範囲は

$$-\sqrt[4]{8} \leq x \leq \sqrt[4]{8} \quad \dots \text{ 罫}$$

【総括】

原題は

0以上の実数 s, t が $s^2 + t^2 = 1$ を満たしながら動くとき、方程式

$$x^4 - 2(s+t)x^2 + (s-t)^2 = 0$$

の解のとり得る値の範囲を求めよ。

という問題でしたが、本質的には同じです。

最後に、逆像法一辺倒になっても…ということについても触れておきたい
と思います。

【参考類題】

θ が $0 \leq \theta \leq \frac{\pi}{2}$ の範囲を変化するとき、関係式

$$x^2 - 6(\sin \theta)x + 6\sin^2 \theta - 3\cos 2\theta = 0$$

を満たす実数 x のとり得る値の範囲を求めよ。

< '94 関西学院大 >

【解答】

$$x = 3\sin \theta \pm \sqrt{9\sin^2 \theta - (6\sin^2 \theta - 3\cos 2\theta)} \\ = 3\sin \theta \pm \sqrt{3\sin^2 \theta + 3(1 - 2\sin^2 \theta)} \\ = 3\sin \theta \pm \sqrt{3(1 - \sin^2 \theta)} \\ = 3\sin \theta \pm \sqrt{3\cos^2 \theta} \\ = 3\sin \theta \pm \sqrt{3}\cos \theta \quad (\because 0 \leq \theta \leq \frac{\pi}{2}) \\ = 2\sqrt{3}\sin\left(\theta \pm \frac{\pi}{6}\right)$$

$$0 \leq \theta \leq \frac{\pi}{2} \text{ より, } \frac{\pi}{6} \leq \theta + \frac{\pi}{6} \leq \frac{2}{3}\pi, \quad -\frac{\pi}{6} \leq \theta - \frac{\pi}{6} \leq \frac{\pi}{3}$$

$$\text{これより, } \begin{cases} \frac{1}{2} \leq \sin\left(\theta + \frac{\pi}{6}\right) \leq 1 \\ -\frac{1}{2} \leq \sin\left(\theta - \frac{\pi}{6}\right) \leq \frac{\sqrt{3}}{2} \end{cases}$$

よって、 x のとり得る値の範囲は

$$\sqrt{3} \leq x \leq 2\sqrt{3}, \quad -\sqrt{3} \leq x \leq 3$$

すなわち、 $-\sqrt{3} \leq x \leq 2\sqrt{3}$ … 罫